

平成 29 年度 不祥事根絶のための行動計画

【不祥事根絶に向けた本校の決意】(行動基準)

- 1 私たちは法令等を遵守します。
- 2 私たちは子どものことを第一に考えます。
- 3 私たちは児童生徒が安心して学べる学校づくりをめざします。
- 4 私たちは教職員の仲間と課題や悩みを共有し、チームワークをもって速やかに対応し、丁寧に解決します。

広島県立広島北特別支援学校
作成責任者 校長 三浦 直宏

区分	本校の課題	行動目標	取組内容	点検方法・時期
教職員の規範意識の確立	<ul style="list-style-type: none"> ○自らの悩みを出し合ったり、組織として改善したりしていくことができるような研修が求められている。 ○職員数が多く、また年度途中での臨時的任用・非常勤職員の採用も多いため、研修内容の迅速かつ徹底した周知が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○研修方法の工夫や内容の具体化により、充実した研修内容の企画を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年度当初に、初任者・新転任者・非常勤講師等に服務研修を行う。 ○出た意見を集約し、振り返りを行う時間を確保する。 ○各分掌が企画・運営している研修との関連を図る。 ○全体研修だけでなく、内容によって学部研修等の形態をとり、意見交換を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○不祥事防止委員会において研修会の取組の状況や課題を確認する。
学校組織としての不祥事防止体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員間のコミュニケーション・情報共有が重要である(迅速な報告・連絡・相談とタイムリーな情報共有)。 ○共通理解を図る組織的な工夫が必要である。 ○不祥事の未然防止のための定期的な自己点検・相互点検が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員同士のコミュニケーションをさらに促進し、互いに相談できるチームであると実感しながら、組織で仕事を進めることができるようにする。 ○学部間の交流を意識した取組を行っていく。 ○身の周りの自己点検や日々の活動について相互点検をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学年会・学部会等で情報交換をし、集団でサポートする体制をつくる。 ○学部間での情報共有の場を設定する。 ○「不祥事防止のための自己点検表」を定期的に活用し、自己点検・相互点検の機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○不祥事防止委員会で情報交換を行い、状況を把握する。 ○部主事と学年主任が定期的に連携する(月1回)。 ○毎月1回、「不祥事防止のための自己点検表」を活用して自己点検を行う。
相談体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○「体罰、セクシュアル・ハラスメント相談窓口」の周知の徹底が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「体罰、セクシュアル・ハラスメント相談窓口」の周知を繰り返し行い、相談しやすい体制をつくる。 ○児童生徒、保護者からの相談やサインを見逃さず、学校組織として対応できる体制をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校広報誌『広北だより』で児童生徒、保護者に相談窓口について周知し、校内全ての教室に分かりやすい掲示をする。 ○学期末懇談会において、「体罰、セクシュアル・ハラスメント相談窓口」の案内プリントを配付するとともに、保護者全員から体罰、セクシュアル・ハラスメントについて聞き取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○後期に生徒、保護者及び本校教職員を対象にアンケートを実施する。 ○学期末懇談会における保護者からの聞き取り記録を作成・集約し、対応する。